

## 老人福祉センターあり方見直しに係る他市への視察結果(概要)

項目	茨木市(関係部署へのヒアリング+施設への視察(2か所))	豊中市(関係部署へのヒアリングのみ)
見直し前における市内の老人福祉センターの数	6施設	4施設
総人口	約30万人	約40万人
見直しの内容	<p>○既存の老人福祉センター機能を廃止し、①活動的な高齢者の様々な取組を支援する社会参加の拠点施設である<u>高齢者活動支援センター</u>(1施設)、②元気で活動的な高齢者をはじめ、子どもたちや多世代が集うための拠点である<u>多世代交流センター</u>(5施設)に再編</p> <p>○介護予防や地域での高齢者の居場所づくりの施策を拡充するため、浴場は廃止。</p>	<p>○既存の老人福祉センターが持つ趣味教室、生きがいづくり活動など憩いの場としての機能は確保しつつ、社会貢献活動や学びの場、発信の場など経験や知識の豊富なアクティブシニアの創出につながる介護予防事業を展開するために、<u>介護予防センター</u>(老人デイサービスセンターの再編と併せて7施設)に再編。</p> <p>○高齢者の生きがいや役割づくりにつながるような、介護予防に資する事業に重点を置いて取り組むため、H31以降を目処に、浴場は廃止。</p>
見直し後の施設の位置づけ	<p>①社会参加の拠点</p> <p>②多世代交流の拠点</p>	介護予防の拠点
見直しに至った背景や理由	<p>○老人福祉センターにおいて、旧来の福祉の枠組みでの施設形態とその運用は、利用者を固定化し、当初の意義とかけ離れたものになる傾向が見受けられ、高齢者の今日的ニーズを掴みきれていない状況であった。また、施設の老朽化に伴う費用負担も増大していることもあり、平成22年に開催された「老人福祉センターあり方検討会」での議論を経て、見直しに至った。</p>	<p>○老人福祉センターが開設された当時と社会経済情勢が大きく変化する中、老人福祉センターの現状や課題を分析し、今日的課題に対応した機能強化策や運営の方向性を明確化し、新たな事業展開を図る必要があることから、見直しに至った。</p> <p>○築40年を超える施設もあり、施設管理コストの上昇に備えた取組が必要である。</p>

## 社会参加支援

○いきいき活動ポイント(社協)

高齢者が指定の施設等でいきいき活動（ボランティア等）をするとポイントが貯まり、申請すると活動支援金に交換可能。元気高齢者が支援の必要な高齢者へいきいき活動を行うことで、生きがいづくりや介護予防に努めて頂くことが目的。

○生涯学習事業「いこいこ未来塾」（シニアカレッジ）

高齢者を対象とした多様な生涯学習講座を提供し、高齢者のセカンドライフを豊かにするとともに、学習成果を受講者個人だけのものとするのではなく、地域への還元も進めている。

## 就労支援

○シニア生きがいワーカーズ支援（シニアカレッジ）

高齢者の方が新たな事業（高齢者、子ども、障害者等を支援する事業）を立ち上げる際に、事業立ち上げに関する相談や資金援助（上限100万円）を行っている。

○シルバー人材センター（シルバー）

事務所窓口や清掃業務等、当施設の施設管理をシルバーが行っている。又、シルバー人材センター事務局を館内に設置し、高齢者の就労支援を行っている。

## 指定管理者：共同事業体「シニアネットワークいばらき」

（茨木市社会福祉協議会、茨木市シルバー人材センター、茨木市老人クラブ連合会、茨木シニアカレッジ）

## 地域活動支援

○老人クラブ活性化推進（老人クラブ）

老人クラブ事務局を館内に設置し、会員数及び単位老人クラブ数（7,240人、135クラブ）の拡大を図り、健康づくりや介護予防、様々な趣味活動、社会貢献活動等の促進を行っている。

○高齢者リーダー養成（老人クラブ）

一般高齢者に対して、パソコン、介護予防アシスタント及び地域ガイド等の講座を実施することによって、地域活動や社会参加のきっかけづくりを進める。

## 介護予防支援

○介護予防普及啓発&リーダー養成・研修（4団体）

シニアプラザいばらき利用者に対して、介護予防体操の「はつらつ体操」の実施や、リーダー養成講座、介護予防に関する各種研修等を実施している。

○啓発型認知症カフェ（4団体）

認知症の方やそのご家族、地域の人など、誰もが気軽に集え、参加者同士の交流や情報交換、専門職による相談や、相談先の情報提供を行っている。市内に19か所あり、H29年度から館内にも開設。